



ネットワーク関連の設定

この章は、次の内容で構成されています。

- [サーバ NIC の設定 \(1 ページ\)](#)
- [共通プロパティの設定 \(15 ページ\)](#)
- [IPv4 の設定 \(17 ページ\)](#)
- [IPv6 の設定 \(18 ページ\)](#)
- [VLAN への接続 \(19 ページ\)](#)
- [ポート プロファイルへの接続 \(20 ページ\)](#)
- [個別設定の指定 \(23 ページ\)](#)
- [ネットワーク セキュリティの設定 \(23 ページ\)](#)
- [Network Time Protocol の設定 \(25 ページ\)](#)

サーバ NIC の設定

サーバー NIC

NIC モード

NIC モード設定により、Cisco IMC に到達できるポートが決定します。プラットフォームに応じて、次のネットワーク モード オプションを使用できます。

- **[専用 (Dedicated)]** : Cisco IMC へのアクセスに管理ポートを使用します。
- **[Cisco カード (Cisco Card)]** : アダプタ カード上の任意のポートを Cisco IMC へのアクセスに使用できます。Cisco アダプタ カードは、ネットワーク通信サービス インターフェイス プロトコル サポート (NCSI) のあるスロットに取り付ける必要があります。
- **[共有 LOM (Shared LOM)]** : Cisco IMC にアクセスするために使用できる LOM (LAN On Motherboard) ポート。

- **[共有 LOM 拡張 (Shared LOM Extended)]** : Cisco IMC へのアクセスに使用できる LOM ポートまたはアダプタカードのポート。Cisco アダプタカードは、NCSI をサポートするスロットに装着する必要があります。



- (注) [共有 LOM (Shared LOM)] ポートおよび [共有 LOM 拡張 (Shared LOM Extended)] ポートは、一部の C シリーズ サーバでのみ使用できます。



- (注) その他の UCS C シリーズ M4、M5、C220 M6、および C240 M6 サーバでは、NIC のモードは、デフォルトで **[共有 LOM 拡張 (Shared LOM Extended)]** に設定されます。

- **共有 OCP** : OCP アダプタカード LOM ポートは、Cisco IMC にアクセスするために使用されます。次のステップで、**[アクティブ-アクティブ (Active-active)]** または **[アクティブ-スタンバイ (Active-standby)]** のいずれかの NIC 冗長化設定を選択する必要があります。
- **共有 OCP 拡張** : この NIC モードでは、DHCP 応答が OCP アダプタカード LOM ポートと Cisco 仮想インターフェイスカード (VIC) ポートの両方に返されます。サーバがスタンダアロンモードであるために、Cisco VIC 接続でその IP アドレスが Cisco UCS Manager システムから取得されないと判別された場合は、その Cisco VIC からのその後の DHCP 要求は無効になります。



- (注) **[共有 OCP (Shared OCP)]** および **[共有 OCP 拡張 (Shared OCP Extended)]** ポートは、Cisco UCS C225 M6、C245 M6、C220 M7、および C240 M7 サーバでのみ使用できます。

デフォルトのNICモード設定 :

- UCS C シリーズ C125 M5 サーバおよび S3260 サーバの場合、**[NIC モード (NIC Mode)]** はデフォルトで **[Cisco カード (Cisco Card)]** に設定されています。

Cisco UCS C225 M6、C245 M6、C220 M7、および C240 M7 サーバの場合 :

- サーバに Cisco VIC カードと OCP カードがある場合、デフォルトの NIC モードは **共有 OCP 拡張** になり、**NIC 冗長性** は **active-active** に設定されます。
- サーバの NCSI 対応スロットに VIC カードが装着されているものの、OCP カードがない場合、デフォルトの NIC モードは **Cisco Card** になります。
- サーバに VIC カードも OCP カードもない場合、デフォルトの NIC モードは **専用モード** に設定され、**NIC 冗長性** はなしに設定されます。

NIC 冗長化

選択した NIC モードとご使用のプラットフォームに応じて、次の NIC 冗長化オプションを使用できます。

- **[アクティブ-アクティブ (active-active)]** : サポートされている場合、設定されている NIC モードに関連付けられたすべてのポートが同時に動作します。これにより、スループットが増加し、Cisco IMC への複数のパスが提供されます。
- **[アクティブ-スタンバイ (active-standby)]** : 設定されている NIC モードに関連付けられたポートで障害が発生した場合、トラフィックは、その NIC モードに関連付けられている他のポートの 1 つにフェールオーバーします。



(注) このオプションを選択する場合は、設定されている NIC モードに関連付けられたすべてのポートが同じサブネットに接続され、どのポートが使用されてもトラフィックの安全が保証されるようにする必要があります。

- **[なし (None)]** : 専用 (*Dedicated*) モードでは、NIC 冗長性はなし (*None*) に設定されます。

使用できる冗長化モードは、選択されているネットワークモードとプラットフォームによって異なります。使用できるモードについては、次を参照してください、『*Hardware Installation Guide*』 (HIG) を参照してください。C シリーズの HIG は、次の URL にあります。

http://www.cisco.com/en/US/products/ps10493/prod_installation_guides_list.html

VIC スロット

Cisco カードモードで管理機能に使用できる VIC スロット。

C240 M6、C245 M6、および C240 M7 の場合、VIC スロット オプションは次のとおりです。

- **[ライザー 1 (Riser 1)]** : スロット 1 およびスロット 2
- **[ライザー 2 (Riser 2)]** : スロット 4 およびスロット 5
- **mLOM**



(注) C240 M6 および C245 M6 C240 M6、C245 M6、および C240 M7 の場合、工場出荷時のデフォルト設定にリセットした後、スロットの優先順位は次のとおりです。

1. mLOM
2. ライザー 1 : スロット 2、およびライザー 2 ~ スロット 5
3. ライザー 1 : スロット 1、およびライザー 2 ~ スロット 4

C220 M6 および C225 M6 C220 M6、C225 M6、および C220 M7 の場合、VIC スロット オプションは次のとおりです。

- [ライザー 1 (Riser 1)] : スロット 1 が選択されます。
- [ライザー 3 (Riser 3)] : スロット 3 が選択されます。
- **mLOM**



(注) C220 M6、C225 M6、および C220 M7 の場合、工場出荷時のデフォルト設定にリセットした後、スロットの優先順位は次のとおりです。

1. mLOM
2. ライザー 1 : スロット 1
3. ライザー 3 : スロット 3

C125 M5 の場合、VIC スロット オプションは [ライザー 2 (Riser 2)] です。

C220 M4、C220 M5 および C240 M5 サーバーでは、VIC スロット オプションは次のとおりです。

- [ライザー 1 (Riser 1)] : スロット 1 が選択されます。
- [ライザー 2 (Riser 2)] : スロット 2 が選択されます。
- [FLEX LOM] : スロット 3 (MLOM) が選択されます。

C240 M4 サーバーでは、VIC スロット オプションは次のとおりです。

- [Riser 1] : スロット 2 がプライマリ スロットですが、スロット 1 も使用できます。
- [ライザー 2 (Riser 2)] : スロット 5 がプライマリ スロットですが、スロット 4 も使用できます。
- [FLEX LOM] : スロット 7 (MLOM) が選択されます。

C480 M5 ML サーバーの場合、Cisco カード モード スロットはスロット 11 およびスロット 12 です。

次のオプションを使用できるのは一部の UCS C シリーズ サーバーだけです。

- 4
- 5
- 9
- 10



(注) このオプションを使用できるのは一部の UCS C シリーズ サーバーだけです。

サーバ NIC の設定

NIC モードと NIC 冗長化を設定する場合は、サーバーの NIC を設定します。

始める前に

NIC を設定するには、**admin** 権限を持つユーザとしてログインする必要があります。

手順

- ステップ 1** [ナビゲーション (Navigation)] ペインの [管理 (Admin)] メニューをクリックします。
- ステップ 2** [管理 (Admin)] メニューで [ネットワーク (Networking)] をクリックします。
- ステップ 3** [NIC Properties] 領域で、次のプロパティを更新します。

名前	説明
[NIC Mode] ドロップダウンリスト	

名前	説明
	<p>Cisco IMC へのアクセスに使用できるポート。次のいずれかになります。</p> <ul style="list-style-type: none"> • [専用 (Dedicated)] : Cisco IMC へのアクセスに管理ポートを使用します。 • [Cisco カード (Cisco Card)] : アダプタ カード上の任意のポートを Cisco IMC へのアクセスに使用できます。Cisco アダプタ カードは、Network Communications Services Interface プロトコル (NCSI) をサポートするスロットに装着する必要があります。 • [共有 LOM (Shared LOM)] : Cisco IMC にアクセスするために使用できる LOM (LAN On Motherboard) ポート。 • [共有 LOM 拡張 (Shared LOM Extended)] : Cisco IMC へのアクセスに使用できる LOM ポートまたはアダプタカードのポート。Cisco アダプタ カードは、NCSI をサポートするスロットに装着する必要があります。 <p>(注) [共有 LOM (Shared LOM)] ポートおよび [共有 LOM 拡張 (Shared LOM Extended)] ポートは、一部の C シリーズサーバでのみ使用できます。</p> <p>(注) その他の UCS C シリーズ M4、M5、C220 M6、および C240 M6 サーバーでは、NIC のモードは、デフォルトで [共有 LOM 拡張 (Shared LOM Extended)] に設定されます。</p> <ul style="list-style-type: none"> • 共有 OCP : OCP アダプタ カード LOM ポートは、Cisco IMC にアクセスするために使用されます。次のステップで、[アクティブ-アクティブ (Active-active)] または [アクティブ-スタンバイ (Active-standby)] のいずれかの NIC 冗長化設定を選択する必要があります。 • 共有 OCP 拡張 : この NIC モードでは、DHCP 応答が OCP アダプタ カード LOM ポートと Cisco 仮想インターフェイスカード (VIC) ポートの両方に返されます。サーバがスタンドアロンモードであるために、Cisco VIC 接続でその IP アドレスが Cisco UCS Manager システムから取得されないと判別された場合は、その Cisco VIC からのその後の DHCP 要求は無効になります。 <p>(注) [共有 OCP (Shared OCP)] および [共有 OCP 拡張 (Shared OCP Extended)] ポートは、Cisco UCS C220 M7、C240 M7、C225 M6 と</p>

名前	説明
	<p>C245 M6 サーバーでのみ使用できます。</p> <p>デフォルトのNICモード設定：</p> <ul style="list-style-type: none">• UCS C シリーズ C125 M5 サーバーおよび S3260 サーバーの場合、[NICモード (NIC Mode)]はデフォルトで[Cisco カード (Cisco Card)]に設定されています。• UCS C シリーズ C220 M7、C240 M7、C225 M6 および C245 M6 サーバーの場合：<ul style="list-style-type: none">• サーバーに Cisco VIC カードと OCP カードがある場合、デフォルトの NIC モードは共有 OCP 拡張になり、NIC 冗長性はactive-activeに設定されます。• サーバーの NCSI 対応スロットに VIC カードが装着されているものの、OCP カードがない場合、デフォルトの NIC モードはCisco Cardになります。• サーバーに VIC カードも OCP カードもない場合、デフォルトの NIC モードは専用モードに設定され、NIC 冗長性はなしに設定されます。

名前	説明
[VIC Slot] ドロップダウンリスト	

名前	説明
	<p>Cisco カード モードで管理機能に使用できる VIC スロット。 C240 M7、C240 M6 と C245 M6、VIC スロット オプションは次のとおりです。</p> <ul style="list-style-type: none"> • [ライザー 1 (Riser 1)] : スロット 1 およびスロット 2 • [ライザー 2 (Riser 2)] : スロット 4 およびスロット 5 • mLOM <p>(注) C240 M7、C240 M6、および C245 M6 の場合、工場出荷時のデフォルト設定にリセットした後、スロットの優先順位は次のとおりです。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. mLOM 2. ライザー 1 : スロット 2、およびライザー 2 ~ スロット 5 3. ライザー 1 : スロット 1、およびライザー 2 ~ スロット 4 <p>C220 M7、C220 M6 と C225 M6 の場合、VIC スロット オプションは次のとおりです :</p> <ul style="list-style-type: none"> • [ライザー 1 (Riser 1)] : スロット 1 が選択されます。 • [ライザー 3 (Riser 3)] : スロット 3 が選択されます。 • mLOM <p>(注) C220 M7、C220 M6、および C225 M6 の場合、工場出荷時のデフォルト設定にリセットした後、スロットの優先順位は次のとおりです :</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. mLOM 2. ライザー 1 : スロット 1 3. ライザー 3 : スロット 3 <p>C125 M5 の場合、VIC スロット オプションは [ライザー 2 (Riser 2)] です。</p> <p>C220 M4、C220 M5 および C240 M5 サーバーでは、VIC スロット オプションは次のとおりです。</p> <ul style="list-style-type: none"> • [ライザー 1 (Riser 1)] : スロット 1 が選択されます。 • [ライザー 2 (Riser 2)] : スロット 2 が選択されます。

名前	説明
	<ul style="list-style-type: none"> • [FLEX LOM] : スロット 3 (MLOM) が選択されます。 <p>C240 SD M5 サーバでは、VIC スロット オプションは次のとおりです。</p> <ul style="list-style-type: none"> • PCIe ライザー 1 と 2B を組み合わせたサーバの場合 : <ul style="list-style-type: none"> • [Riser1] を選択した場合は、スロット 2 に VIC を取り付ける必要があります。 • [Riser2] を選択した場合は、スロット 5 に VIC を取り付ける必要があります。 • PCIe ライザー 1C と 2E を組み合わせたサーバの場合 : <ul style="list-style-type: none"> • [ライザー1 (Riser1)] を選択した場合は、スロット 1 に VIC を取り付ける必要があります。 • [ライザー2 (Riser2)] を選択した場合は、スロット 2 に VIC を取り付ける必要があります。 • [Flex-LOM] を選択した場合は、mLOM スロットに mLOM タイプの VIC を取り付ける必要があります。 <p>C480 M5 ML サーバーの場合、Cisco カード モード スロットはスロット 11 およびスロット 12 です。</p> <p>次のオプションを使用できるのは一部の UCSC シリーズサーバーだけです。</p> <ul style="list-style-type: none"> • 4 • 5 • 9 • 10 <p>C240 M4 サーバーでは、VIC スロット オプションは次のとおりです。</p> <ul style="list-style-type: none"> • [Riser 1] : スロット 2 がプライマリ スロットですが、スロット 1 も使用できます。 • [ライザー 2 (Riser 2)] : スロット 5 がプライマリ スロットですが、スロット 4 も使用できます。 • [FLEX LOM] : スロット 7 (MLOM) が選択されます。 <p>(注) このオプションを使用できるのは一部の UCSC シリーズサーバーだけです。</p>

名前	説明
<p>[VIC Slot] ドロップダウン リスト</p>	<p>Cisco カード モードで管理機能に使用できる VIC スロット。次のいずれかになります。</p> <p>C220 M4 サーバーでは、VIC スロット オプションは次のとおりです。</p> <ul style="list-style-type: none"> • [ライザー 1 (Riser 1)] : スロット 1 が選択されます。 • Riser 2 : スロット 2 が選択されます。 • [FLEX LOM] : スロット 3 (MLOM) が選択されます。 <p>C240 M4 サーバーでは、VIC スロット オプションは次のとおりです。</p> <ul style="list-style-type: none"> • [ライザー 1 (Riser 1)] : スロット 2 がプライマリ スロットですが、スロット 1 も使用できます。 • [ライザー 2 (Riser 2)] : スロット 5 がプライマリ スロットですが、スロット 4 も使用できます。 • [FLEX LOM] : スロット 7 (MLOM) が選択されます。 <p>次のオプションを使用できるのは一部の UCSC シリーズサーバーだけです。</p> <ul style="list-style-type: none"> • 4 • 5 • 9 • 10 <p>(注) このオプションを使用できるのは一部の UCSC シリーズサーバーだけです。</p>
<p>[SIOC スロット (SIOC Slot)] ドロップダウンリスト</p>	<p>Cisco IMC ネットワーク モードを設定します。システム IO コントローラ (SIOC1) に存在するカードに基づいて、ネットワーク モードを 1 または 2 に変更できます。</p> <p>(注) このオプションは、一部の UCS S シリーズサーバーでのみ使用できます。</p>

名前	説明
[NIC Redundancy] ドロップダウンリスト	<p>使用可能な NIC 冗長オプションは、選択した NIC モードおよび使用しているサーバのモデルによって異なります。特定のオプションが表示されない場合、そのオプションは選択されているモードまたはサーバモデルでは選択できません。</p> <p>次のいずれかになります。</p> <ul style="list-style-type: none"> • [アクティブ-アクティブ (active-active)] : サポートされている場合、設定されている NIC モードに関連付けられたすべてのポートが同時に動作します。この機能により、スループットが増加し、Cisco IMC への複数のパスが提供されます。 • [アクティブ-スタンバイ (active-standby)] : 設定されている NIC モードに関連付けられたポートで障害が発生した場合、トラフィックは、その NIC モードに関連付けられている他のポートの 1 つにフェールオーバーします。 <ul style="list-style-type: none"> (注) <ul style="list-style-type: none"> • このオプションを選択する場合は、設定されている NIC モードに関連付けられたすべてのポートが同じ VLAN に接続され、どのポートが使用されてもトラフィックの安全が保証されるようにする必要があります。 • [アクティブ-アクティブ (active-active)] を使用する場合は、メンバーインターフェイスの上流に位置するスイッチで port-channel を設定しないでください。port-channel は、[active-standby] を使用する場合に設定できます。 • [なし (None)] : 専用 (Dedicated) モードでは、NIC 冗長性はなし (None) に設定されます。
[MAC Address] フィールド	[NICモード (NIC Mode)] フィールドで選択されている Cisco IMC ネットワーク インターフェイスの MAC アドレス。

ステップ 4 [Save Changes] をクリックします。

Cisco VIC mLOM および OCP カードの交換に関する考慮事項

Cisco UCS C220 M7、C240 M7、C225 M6 および C245 M6 サーバーで、Cisco VIC mLOM および OCP カードを交換する際には、次の状況で Cisco IMC ネットワークとの接続が失われることがあります。

- MLOM スロットの OCP カードを Cisco VIC カードと交換し、NIC モードを共有 **OCP** または共有 **OCP 拡張** に設定している場合。
- MLOM スロットの Cisco VIC カードを OCP カードと交換し、NIC モードを **Cisco カード MLOM** に設定している場合。

Cisco UCS C220 M7、C240 M7、C225 M6 または C245 M6 サーバーの Cisco VIC mLOM または OCP カードを交換する際は、次の推奨事項に従ってください。

- カードを交換する前に、ネットワークと接続している NIC のモードを、**Cisco カード MLOM**、共有 **OCP**、または共有 **OCP 拡張** 以外のいずれかに設定しておきます。カードの交換後に、適切な NIC モードを設定します。

NIC モードの設定方法については、ご使用の Cisco IMC リリースの *Server NIC Configuration* の項を参照してください。これは [Configuration Guides](#) に記載されています。

- または、カードを交換した後、Cisco IMC Configuration Utility/ (F8 キー) を使用して適切な NIC モードを設定します。

ご使用のサーバーの *Connecting to the Server Locally For Setup* の項を参照してください。これは「」セクションを参照してください。これは [Install and Upgrade Guides](#) に記載されています。

- または、カードを交換した後、Cisco IMC Configuration Utility/ (F8 キー) を使用して工場出荷時のデフォルト設定に戻してから、次の手順を実行します。

1. サーバーが再起動を開始したら、F8 キーを押してシステムを Cisco IMC Configuration で起動し、デフォルトのパスワードを変更します。
2. 適切な NIC モードに設定します。

表 1: 工場出荷時設定

mLOM スロットの VIC	mLOM スロットの Intel OCP 3.0 NIC	ライザー スロットの VIC	専用管理ポート。	CIMC アクセスのための NIC モード
はい	いいえ	いいえ	はい	mLOM スロットのカードを使用する Cisco Card モード
いいえ	はい	いいえ	はい	Shared OCP Extended

mLOM スロットの VIC	mLOM スロットの Intel OCP 3.0 NIC	ライザー スロットの VIC	専用管理ポート。	CIMC アクセスのための NIC モード
いいえ	はい	はい	はい	Shared OCP Extended
いいえ	いいえ	はい	はい	優先順位に基づく VIC スロットでの Cisco カード： C220 M7 および C225 M6 の場合： 1. ライザー 1 : スロット 1 2. ライザー 3 : スロット 3 C240 M7 および C245 M6 の場合： 1. ライザー 1 : スロット 2 2. ライザー 2 : スロット 5 3. ライザー 1 : スロット 1 4. ライザー 2 : スロット 4
いいえ	いいえ	いいえ	はい	専用

共通プロパティの設定

共通プロパティの設定の概要

ホスト名

ダイナミック ホスト コンフィギュレーション プロトコル (DHCP) 拡張機能は、ホスト名を DHCP パケットに追加することで利用でき、DHCP サーバ側でこれを解釈または表示できま

す。ホスト名は DHCP パケットのオプション フィールドに追加され、（最初に DHCP サーバに送信される）DHCP DISCOVER パケットで送信されます。

サーバのデフォルトのホスト名は ucs-c2XX から CXXX-YYYYYY に変更されます（XXX はサーバのモデル番号で、YYYYYY はシリアル番号です）。この一意のストリングはクライアント ID として機能し、DHCP サーバから Cisco IMC にリースされる IP アドレスを追跡してマッピングするのに役立ちます。サーバのステッカーまたはラベルとして製造者から提供されるデフォルトシリアル番号は、サーバを識別するのに役立ちます。

ダイナミック DNS

ダイナミック DNS (DDNS) は、Cisco IMC から DNS サーバのリソース レコードを追加または更新するために使用されます。Web UI または CLI を使用してダイナミック DNS を有効にできます。[DDNS] オプションを有効にすると、DDNS サービスは現在のホスト名、ドメイン名、および管理 IP アドレスを記録し、Cisco IMC から DNS サーバのリソース レコードを更新します。



(注) DDNS サーバは、次の DNS 設定のいずれかが変更された場合に、DNS サーバの以前のリソース レコード（もしあれば）を削除し、新しいリソース レコードを追加します。

- ホスト名
- LDAP 設定のドメイン名
- DDNS と DHCP が有効な場合に、ネットワークまたはサブネットの変更による新しい IP アドレスまたは DNS IP またはドメイン名を DHCP が取得する場合。
- DHCP がディセーブルの場合に、CLI または Web UI を使用してスタティック IP アドレスを設定する場合。
- `dns-use-dhcp` コマンドを入力する場合。

[Dynamic DNS Update Domain] : ドメインを指定できます。ドメインは、メインドメインまたはサブドメインのどちらでも可です。このドメイン名は、DDNS 更新のため Cisco IMC のホスト名に付加されます。

共通プロパティの設定

サーバを説明するには、共通プロパティを使用します。

始める前に

共通プロパティを設定するには、admin 権限を持つユーザとしてログインする必要があります。

手順

ステップ 1 [ナビゲーション (Navigation)] ペインの [管理 (Admin)] メニューをクリックします。

ステップ 2 [管理 (Admin)] メニューで [ネットワーク (Networking)] をクリックします。

ステップ 3 [Common Properties] 領域で、次のプロパティを更新します。

名前	説明
[Management Hostname] フィールド	Cisco IMC のさまざまなコンポーネントを管理するシステムのユーザ定義の管理ホスト名。
[Dynamic DNS] チェックボックス	オンにすると、Cisco IMC から DNS に対するリソース レコードが更新されます。
[Dynamic DNS Update Domain] フィールド	ダイナミック DNS (DDNS) の更新のためにホスト名に付加されるドメイン名。空白のままだと、ホスト名のみが DDNS 更新要求に送信されます。
[ダイナミック DNS の更新間隔 (Dynamic DNS Refresh Interval)] フィールド	ドメインネームシステム (DNS) を更新するために設定された時間。 0 ~ 8736 時間の値を設定します。0 に設定すると、無効になります。

ステップ 4 [Save Changes] をクリックします。

IPv4 の設定

始める前に

IPv4 を設定するには、admin 権限を持つユーザーとしてログインする必要があります。

手順

ステップ 1 [ナビゲーション (Navigation)] ペインの [管理 (Admin)] メニューをクリックします。

ステップ 2 [管理 (Admin)] メニューで [ネットワーク (Networking)] をクリックします。

ステップ 3 [IPv4 Properties] 領域で、次のプロパティを更新します。

名前	説明
[Enable IPv4] チェックボックス	オンにすると、IPv4 がイネーブルになります。

名前	説明
[Use DHCP] チェックボックス	オンにすると、Cisco IMC は DHCP を使用します。
[管理 IP アドレス (Management IP Address)] フィールド	管理 IP アドレス。CMC と BMC を管理しやすくする外部仮想 IP アドレス。
[サブネットマスク (Subnet Mask)] フィールド	IP アドレスのサブネット マスク。
[ゲートウェイ (Gateway)] フィールド	IP アドレスのゲートウェイ。
[Obtain DNS Server Addresses from DHCP] チェックボックス	オンにすると、Cisco IMC は DNS サーバアドレスを DHCP から取得します。
[Preferred DNS Server] フィールド	プライマリ DNS サーバの IP アドレス。
[Alternate DNS Server] フィールド	セカンダリ DNS サーバの IP アドレス。

ステップ 4 [Save Changes] をクリックします。

IPv6 の設定

始める前に

IPv6 を設定するには、admin 権限を持つユーザーとしてログインする必要があります。

手順

ステップ 1 [ナビゲーション (Navigation)] ペインの [管理 (Admin)] メニューをクリックします。

ステップ 2 [管理 (Admin)] メニューで [ネットワーク (Networking)] をクリックします。

ステップ 3 [IPv6 Properties] 領域で、次のプロパティを更新します。

名前	説明
[IPv6の有効化 (Enable IPv6)] チェックボックス	オンにした場合、IPv6 が有効になります。
[Use DHCP] チェックボックス	オンにすると、Cisco IMC は DHCP を使用します。 (注) ステートフル DHCP のみがサポートされます。

名前	説明
[管理 IP アドレス (Management IP Address)] フィールド	管理 IPv6 アドレス。 (注) グローバルユニキャストアドレスだけがサポートされます。
[プレフィクス長 (Prefix Length)] フィールド	IPv6 アドレスのプレフィクス長。値は 1 ~ 127 の範囲で入力します。デフォルト値は 64 です。
[ゲートウェイ (Gateway)] フィールド	IPv6 アドレスのゲートウェイ。 (注) グローバルユニキャストアドレスだけがサポートされます。
[Obtain DNS Server Addresses from DHCP] チェックボックス	オンにすると、Cisco IMC は DNS サーバー アドレスを DHCP から取得します。 (注) [Use DHCP] オプションがイネーブルの場合のみこのオプションを使用できます。
[Preferred DNS Server] フィールド	プライマリ DNS サーバの IPv6 アドレス。
[Alternate DNS Server] フィールド	セカンダリ DNS サーバの IPv6 アドレス。
[リンク ローカル アドレス (Link Local Address)] フィールド	IPv6 アドレスのリンク ローカルアドレス。
[SLAAC アドレス (SLAAC Address)] フィールド	Stateless Address Auto Configuration (SLAAC) は、ネットワークのルータアドバタイズメント (RA) によって異なります。

ステップ 4 [Save Changes] をクリックします。

VLAN への接続

始める前に

VLAN に接続するには、admin としてログインしている必要があります。

手順

ステップ1 [ナビゲーション (Navigation)] ペインの [管理 (Admin)] メニューをクリックします。

ステップ2 [管理 (Admin)] メニューで [ネットワーク (Networking)] をクリックします。

ステップ3 [VLAN Properties] 領域で、次のプロパティを更新します。

名前	説明
[Enable VLAN] チェックボックス	オンにすると、Cisco IMC は仮想 LAN に接続されます。 (注) VLAN またはポートプロファイルを構成することができますが、その両方を使用することはできません。ポートプロファイルを使用するには、このチェックボックスをオフにしておく必要があります。
[VLAN ID] フィールド	VLAN ID。
[優先順位 (Priority)] フィールド	VLAN でのこのシステムのプライオリティ。

ステップ4 [Save Changes] をクリックします。

ポートプロファイルへの接続

始める前に

ポートプロファイルに接続するには、admin としてログインしている必要があります。

手順

ステップ1 [ナビゲーション (Navigation)] ペインの [管理 (Admin)] メニューをクリックします。

ステップ2 [管理 (Admin)] メニューで [ネットワーク (Networking)] をクリックします。

ステップ3 [Port Properties] 領域で、次のプロパティを更新します。

名前	説明
[Port Profile] フィールド	[Port Profile] フィールドの詳細。

名前	説明
[自動ネゴシエーション (Auto Negotiation)] チェックボックス	<p>このオプションを使用すると、スイッチのネットワーク ポートの速度やデュプレックス値を設定したり、システムが自動的にスイッチから値を取得できるようにしたりすることができます。このオプションは、[専用 (Dedicated)]モードでのみ使用可能です。</p> <ul style="list-style-type: none">• オンにすると、ネットワーク ポート速度とデュプレックスの設定はシステムによって無視され、Cisco IMCはスイッチに設定された速度を保持します。• オフにすると、ネットワーク ポートの速度とデュプレックスの値を設定できます。

名前	説明
[管理者モード (Admin Mode)] 領域	<p>[Network Port Speed] フィールド</p> <p>ポートのネットワーク速度。次のいずれかになります。</p> <ul style="list-style-type: none"> • 10 Mbps • 100 Mbps • 1 Gbps <p>デフォルト値は、100 Mbps です。[専用 (Dedicated)] モードで [自動ネゴシエーション (Auto Negotiation)] を無効にすると、ネットワークの速度とデュプレックスの値を設定できます。</p> <p>(注) • ポートの速度を変更する前に、接続先のスイッチのポートの速度が同じであることを確認します。</p> <p>[Duplex] ドロップダウン リスト</p> <p>Cisco IMC 管理ポートのデュプレックス モード。</p> <p>次のいずれかになります。</p> <ul style="list-style-type: none"> • 半二重 • 全二重 <p>デフォルトでは、デュプレックスモードは[フル (Full)] に設定されます。</p>
[操作モード (Operation Mode)] 領域	<p>オペレーション ネットワークのポートの速度とデュプレックスの値が表示されます。</p> <p>[自動ネゴシエーション (Auto Negotiation)] チェックボックスをオンにした場合は、スイッチのネットワーク ポートの速度とデュプレックスの詳細が表示されます。オフにすると、[Admin Mode] で設定したネットワーク ポート速度とデュプレックス値が表示されます。</p>

ステップ 4 [Save Changes] をクリックします。

個別設定の指定

この機能は、Cisco UCS S シリーズ サーバーにのみ適用されます。

始める前に

設定を構成するには、管理者としてログインしている必要があります。

手順

- ステップ 1** [ナビゲーション (Navigation)] ペインの [管理 (Admin)] メニューをクリックします。
- ステップ 2** [管理 (Admin)] メニューで [ネットワーク (Networking)] をクリックします。
- ステップ 3** [Individual Settings] 領域で、[CMC 1]、[CMC 2]、[BMC 1]、[BMC 2] のそれぞれの領域で次のフィールドを確認し、更新します。

名前	説明
[Hostname] フィールド	ユーザ定義のホスト名。デフォルトでは、ホスト名は CXXX-YYYYYY 形式で表示されます (XXX はサーバのモデル番号、YYYYYY はシリアル番号です)。
[MAC Address] フィールド	コンポーネントの MAC アドレス。
[IPv4 アドレス (IPv4 Address)] フィールド	コンポーネントの IPv4 アドレス。
[IPv6 アドレス (IPv6 Address)] フィールド	コンポーネントの IPv6 アドレス。
[Link Local Address] フィールド	コンポーネントの IPv6 アドレスのリンク ローカルアドレス。

- ステップ 4** [Save Changes] をクリックします。

ネットワーク セキュリティの設定

ネットワーク セキュリティ

Cisco IMC は、IP ブロッキングをネットワーク セキュリティとして使用します。IP ブロッキングは、サーバまたは Web サイトと、特定の IP アドレスまたはアドレス範囲との間の接続を防

ぎます。IP ブロッキングは、これらのコンピュータから Web サイト、メール サーバー、またはその他のインターネット サーバーへの不要な接続を効果的に禁止します。

禁止 IP の設定は、一般的に、サービス拒否 (DoS) 攻撃から保護するために使用されます。Cisco IMC は、IP ブロッキングの失敗回数を設定して、IP アドレスを禁止します。

ネットワーク セキュリティの設定 [英語]

IP ブロッキングの失敗回数を設定する場合は、ネットワーク セキュリティを設定します。

始める前に

ネットワーク セキュリティを設定するには、admin 権限を持つユーザとしてログインする必要があります。

手順

ステップ 1 [ナビゲーション (Navigation)] ペインの [管理 (Admin)] メニューをクリックします。

ステップ 2 [ネットワーク (Networking)] ペインで [ネットワークセキュリティ (Network Security)] をクリックします。

ステップ 3 [IP Blocking Properties] 領域で、次のプロパティを更新します。

名前	説明
[Enable IP Blocking] チェックボックス	このチェックボックスをオンにすると、IP ブロッキングがイネーブルになります。
[IP Blocking Fail Count] フィールド	指定された時間ユーザがロックアウトされる前に、ユーザが試行できるログインの失敗回数。 この回数のログイン試行失敗は、[IP Blocking Fail Window] フィールドで指定されている期間内に発生する必要があります。 3 ~ 10 の整数を入力します。
[IP Blocking Fail Window] フィールド	ユーザーをロックアウトするためにログイン試行の失敗が発生する必要のある期間 (秒数)。 60 ~ 280 の整数を入力します。
[IP Blocking Penalty Time] フィールド	ユーザが指定されている期間内にログイン試行の最大回数を超えた場合に、ユーザがロックアウトされている秒数。 300 ~ 900 の整数を入力します。

ステップ 4 [IP フィルタリング (ホワイトリスティング) (IP Filtering (Whitelisting))] 領域で、次のプロパティを更新します。

名前	説明
[IP フィルタリングを有効にする (Enable IP Filtering)] チェックボックス	このチェックボックスをオンにすると、IP フィルタリングが有効になります。
[IP フィルタ (IP Filter)] フィールド	サーバに対するセキュアなアクセスを確保するために、フィルタを設定して、選択した一連の IP のみがサーバにアクセスできるようにします。このオプションでは、IP アドレスを保存するための4つのスロット (IP フィルタ 1、2、3、および 4) が提供されます。IP フィルタの設定時に、単一の IP アドレスまたは IP アドレスの範囲を割り当てることができます。IP フィルタを設定すると、他の IP アドレスを使用してサーバにアクセスすることができなくなります。

ステップ 5 [Save Changes] をクリックします。

Network Time Protocol の設定

Network Time Protocol サービス設定

デフォルトでは、Cisco IMC がリセットされると、ホストと時刻が同期されます。NTP サービスを導入すると、Cisco IMC を設定して NTP サーバーで時刻を同期することができます。デフォルトでは、NTP サーバーは Cisco IMC で動作しません。少なくとも 1 台、最大 4 台の、NTP サーバまたは時刻源サーバとして動作するサーバの IP/DNS アドレスを指定し、NTP サービスを有効にして設定する必要があります。NTP サービスをイネーブルにすると、Cisco IMC は設定された NTP サーバーと時刻を同期します。NTP サービスは Cisco IMC でのみ変更できます。



(注) NTP サービスを有効にするには、DNS アドレスではなく、サーバの IP アドレスを指定することを推奨します。

Network Time Protocol 設定の指定

NTP を設定すると、IPMI の **Set SEL time** コマンドはディセーブルになります。

始める前に

このタスクを実行するには、admin 権限を持つユーザとしてログインする必要があります。

手順

ステップ1 [ナビゲーション (Navigation)] ペインの [管理 (Admin)] メニューをクリックします。

ステップ2 [管理 (Admin)] メニューで [ネットワーク (Networking)] をクリックします。

ステップ3 [ネットワーク (Networking)] ペインで [NTP設定 (NTP Setting)] をクリックします。

ステップ4 [NTP プロパティ (NTP Properties)] エリアで、次のプロパティを更新します。

名前	説明
NTP が有効化された チェックボックス	NTP サービスをイネーブルにするには、このボックスをオンにします。
[サーバ1 (Server 1)] フィールド	NTP サーバまたはタイム ソース サーバとして機能する 4 台のサーバのうちの 1 台の IP/DNS アドレス。
[サーバ2 (Server 2)] フィールド	NTP サーバまたはタイム ソース サーバとして機能する 4 台のサーバのうちの 1 台の IP/DNS アドレス。
[サーバ3 (Server 3)] フィールド	NTP サーバまたはタイム ソース サーバとして機能する 4 台のサーバのうちの 1 台の IP/DNS アドレス。
[サーバ4 (Server 4)] フィールド	NTP サーバまたはタイム ソース サーバとして機能する 4 台のサーバのうちの 1 台の IP/DNS アドレス。
[ステータス (Status)] メッセージ	<p>サーバーがリモートの NTP サーバと時刻を同期できるかどうかを示します。これは、ローカルクロックの階層レベルを示す 8 ビットの整数です。次のいずれかになります。</p> <ul style="list-style-type: none"> • 0 — 未指定または無効 • 1 — プライマリ サーバ • 2-15 — セカンダリ サーバ (NTP 経由) • 16 — 非同期 • 17-255 — 予約済み

ステップ5 [Save Changes] をクリックします。

翻訳について

このドキュメントは、米国シスコ発行ドキュメントの参考和訳です。リンク情報につきましては、日本語版掲載時点で、英語版にアップデートがあり、リンク先のページが移動/変更されている場合がありますことをご了承ください。あくまでも参考和訳となりますので、正式な内容については米国サイトのドキュメントを参照ください。